

観光分野における 「ワクチン・検査パッケージ」 技術実証結果概要

令和3年11月19日

- 実証については、パッケージ旅行・宿泊単体の商品のそれぞれのオペレーションについて実証。
- 参加した事業者・利用者に対するアンケートを実施。（ツアーは10月8日～11月14日、宿泊施設は10月15日～31日チェックインにおいて実施。）

◆ 実施結果概要

- 技術実証の対象ツアーは972名、対象宿泊商品は7,413名が利用。
- 9割以上がワクチン接種証明を利用。
- いずれのツアー・宿泊施設の運用についても大きな混乱はなかった。
- 参加者・事業者のいずれも、ワクチン・検査パッケージには安心感があるという肯定的な意見が多数。
- 今回の技術実証参加者について旅行後2週間以内の陽性と疑われる症状がある方は現時点で0名。

◆ 今後のオペレーションに係る知見と今後の対応

- ワクチン接種歴の証明証類について原本は大きく持ち歩きにくいとの意見あり。
↳ **コピー、画像による提示も可能であることの周知徹底**が必要。
- 検査結果通知書の統一様式を利用した事業者からは負担軽減につながるとの意見多数。
↳ **検査結果通知書の統一様式の利用を推奨**。
- 約3割の宿泊施設において、予防接種済証等の持参を忘れた例が見られた。
↳ **参加条件の周知徹底**とともに、別の宿泊プランを紹介するなど**参加条件を満たさない場合の対応の明確化**が必要。
- 一部のツアーにおいて大声でしゃべる等の感染症対策を考慮しない参加者あり。
↳ **ワクチン・検査パッケージのツアーであっても感染症対策が不可欠であることの周知徹底**が必要。

↳ 『**旅行業・宿泊業におけるワクチン・検査パッケージ運用ガイドライン**』に反映

観光分野における「ワクチン・検査パッケージ」技術実証概要

- 実証については、パッケージ旅行・宿泊単体の商品のそれぞれのオペレーションについて実証。
- 参加した事業者・利用者に対するアンケートを実施。
- 旅行終了から2週間経過後の健康状態を確認。

【パッケージ旅行】

11社40件のツアーでの実施

○旅行代理店に直接申し込む場合

※予約サイト経由の場合も同様



現地へ



購入時に、ワクチン証明or検査結果
を提示することを宣誓させる

集合場所にて、ワクチン証明or検査
結果の提示を求め、確認

【チェック項目】

- ・ワクチン・検査結果の提示の割合
- ・ワクチン接種歴の持参書類の媒体
- ・ワクチン・検査パッケージによる安心感への影響
- ・チェックに要する時間
- ・確認作業における改善点

検査結果通知書の統一様式を一部で活用

技術実証指定様式 【COVID-19（新型コロナウイルス）】 検査結果通知書	
検査結果	陰性
受検者氏名	_____
有効期限 ^{※1}	令和 年 月 日
検体採取日 ^{※2}	令和 年 月 日
検査方法	<input type="checkbox"/> PCR検査 <input type="checkbox"/> 抗原定量検査 <input type="checkbox"/> 抗原定性検査
検査事業者	(事業者名) (検査所名) (住所) (電話)

※1 PCR検査、抗原定量検査の有効期間は72時間、抗原定性検査は24時間としています。
※2 検体採取日は、「検査所において検体を採取した日」、「検体採取にあたって受検者が検体採取を実施したと申告した日」のいずれかとなります。

【宿泊施設】

23社108施設での実施

○宿泊施設に直接申し込む場合

※予約サイト経由の場合も同様



現地へ



購入時に、ワクチン証明or検査結果
を提示することを宣誓させる

チェックイン時に、ワクチン証明or検査
結果の提示を求め、確認

【チェック項目】

- ・ワクチン・検査結果の提示の割合
- ・ワクチン接種歴の持参書類の媒体
- ・ワクチン・検査パッケージによる安心感への影響
- ・チェックに要する時間
- ・確認作業における改善点

- 9割以上の参加者がワクチン接種証明を利用。(ツアー：84.6%、宿泊施設：99.6%、全体：97.8%)
- ワクチン・検査パッケージには安心感があるという肯定的な意見が多数。
- ツアーは紙コピー・写真の割合が高く、宿泊施設では原本の割合が高い。
- 旅行後2週間以内の陽性と疑われる症状がある方は現時点で0名。

技術実証の実施状況 (ツアー)

- 技術実証の参加人数及び利用した参加要件

	全体	ワクチン 2回接種済	PCRなどの検査 で陰性
人数(人)	972	822	150
割合(%)	100%	84.6%	15.4%

- ワクチン・検査を要件にしたツアーによる安心感

高まった	やや高まった	変わらない	回答無し
55.9%	35.6%	6.5%	2.0%

- ワクチン接種歴の持参書類の媒体

原本	紙コピー	写真(スマホ)	回答無し
21.1%	54.0%	25.3%	0.6%

■ ツアー集合時の確認の様様



技術実証の実施状況 (宿泊施設)

- 技術実証の参加人数及び利用した参加要件

	全体	ワクチン 2回接種済	PCRなどの検査 で陰性
人数(人)	7,413	7,382	31
割合(%)	100%	99.6%	0.4%

- ワクチン・検査を要件にした宿泊による安心感

高まった	やや高まった	変わらない
38.6%	33.6%	27.8%

- ワクチン接種歴の持参書類の媒体

原本	紙コピー	写真(スマホ)	回答無し
65.2%	12.8%	21.5%	0.4%

■ チェックイン時の確認の様様



- 事業者についてもワクチン・検査パッケージは安心感を高めるとの意見が多数。
- 確認作業の改善点として、**検査結果通知書の様式統一**や**証明書の確認のポイントを整理したマニュアル**を求める意見が多数。
- **参加条件を満たさない場合の対応の明確化、参加条件の周知徹底**が重要との意見。

事業者 (旅行会社・宿泊事業者)

● 確認書類の目視確認時間 (平均)

ワクチン接種歴：18秒
陰性の検査結果：25秒

● ワクチン・検査を要件にしたツアー・宿泊プランによる安心感

大きく高める	少し高める	まったく変わらない	回答無し
40.4%	51.1%	7.8%	0.7%

- 確認作業における主な改善点 (複数選択可)
 - ・ PCR等の**検査様式の統一化** (37%)
 - ・ 目視で**確認すべき項目や確認のポイントを整理したマニュアル** (36%)
 - ・ ワクチン・検査に係る**要件を満たさなかったお客様への対応方の明確化** (32%)
 - ・ ワクチン・検査に係る**要件に関するお客様への事前説明の徹底** (28%)
 - ・ 特になし (30%)

等

● 確認作業による負担感

大きく高める	少し高める	全く変わらない
17.7%	56.0%	26.2%

● 検査結果通知書の様式統一による確認作業の負担軽減度 (利用した事業者のみの回答)

大きく減る	少し減る	全く減らない
23.1%	69.2%	7.7%

- ワクチン・検査を要件としたツアー・宿泊に関する自由意見
 - ・ **証明書類の様式が統一化**されると、お客様、従業員ともに、何を確認する必要があるかが明確になり、トラブルや手間が避けられる。
 - ・ **様式の統一化は必須**だと思われる。
 - ・ **証明書を忘れた際の対応を明確に決めておく必要**がある。
 - ・ 接種済証や検査結果を使う場合の**ルールを事前周知していくことが重要**。
 - ・ 参加者が多いツアーでは確認に時間を要するため、集合時刻⁴を早める必要がある。

等

- ▶ 宿泊施設4施設では、当日の抗原定性検査も実施し、その運用を検証。運用の混乱はなかったが、宿泊施設独自に検査態勢を確保することは施設側の負担が大きいとの課題が指摘された。
- ▶ 旅行後2週間以内の陽性と疑われる症状がある方は現時点で0名。

技術実証(抗原定性検査)の実施状況

- 宿泊者167人に対して抗原定性検査を実施し、運用の混乱はなかった。

宿泊客アンケート

- 検査方法の説明は十分であったか？

十分だった	どちらとも言えない	不十分だった
99.4%	0.6%	0%

- 検査場所の感染症対策は十分であったか？

十分だった	どちらとも言えない	不十分だった
97.6%	2.4%	0%

宿泊事業者アンケート

- 連携医療機関の設定に関しては、陽性判明時に受入を約束できないため連携医療機関の設定を断られることがあった他、連携医療機関を設定したとしても、夕方のチェックイン時間帯には医療機関が閉まっており受診ができない点について懸念があった。
- **宿泊施設独自に検査体制を確保することは、検査場所の設置・運営に係る施設側の負担が大きい。**



■ 宿泊施設館外に設置された検査スペース